

「立山黒部」世界ブランド化推進会議

第2回会議

プロジェクト進捗報告資料



平成29年10月20日

富 山 県

観光・交通・地域振興局

生活環境文化部

「立山黒部」世界ブランド化 プロジェクトの進捗状況

これまでの経過

○6月 1日

第1回「『立山黒部』世界ブランド化推進会議・・・各プロジェクトの推進体制（責任者・関係者）（東京開催）
とスケジュールイメージを共有



第1回推進会議

○7月28日

第1回ワーキンググループ・・・・・・・・・・・・・・・・・・県内事業者が協同して実施することが必要なプロジェクト（13プロジェクト）（富山開催）
について進捗確認や方針を議論

プロジェクト例

携帯電話不通エリア、Wi-Fi未整備エリアの解消

【検討内容】関係事業者によるタスクフォースを設置（→8/2に第1回開催）

○9月29日

第2回ワーキンググループ・・・・・・・・・・・・・・・・・・前回のワーキンググループから特に進捗のあったプロジェクト（9プロジェクト）（富山開催）
について進捗確認や方針を議論

プロジェクト例

カルテラ体験学習会の周知強化等

【検討内容】旅行会社の商品造成担当者を招いてモニターツアーを実施（→10/3に実施（首都圏の旅行会社等から4社7名が参加））

○10月11日

第3回ワーキンググループ・・・・・・・・・・・・・・・・・・「黒部ルート見学会の一般開放・旅行商品化」について、現状の整理や安全対策、実施体制等について議論（東京開催）

○10月20日

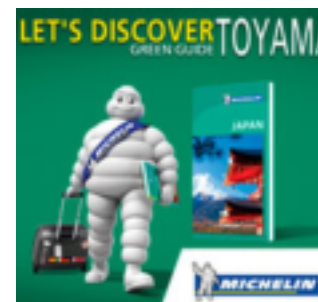
第2回「『立山黒部』世界ブランド化推進会議・・・各プロジェクトの進捗状況を踏まえ委員からご意見をいただくとともに、「立山黒部」のブランドコンセプト等について議論（富山開催：併せて現地視察も実施）

「立山黒部」世界ブランド化 プロジェクトの進捗状況②

各プロジェクト進捗状況

○ 昨年度の「『立山黒部』の保全と利用を考える検討会」において提案のあった28のプロジェクトのうち、

- ① 10プロジェクトについては、既に具体的な取組に着手
- ② 12プロジェクトについては、課題解決に向けた情報収集・検討中
- ③ 6プロジェクトについては、課題を整理中



ミシュラン・グリーンガイド 富山



環境配慮型トイレ

分類	該当するプロジェクト(例)	主な進捗状況
①具体的に着手 (10プロジェクト)	13 新しいマーケット(欧米豪等)での認知度向上	<ul style="list-style-type: none"> ミシュラン・グリーンガイドを活用した情報発信 など (Web版はH29.9.28公開、ガイドブック(誌面)には H31掲載予定) <p>〔立山黒部エリア ★★★: 立山黒部アルペンルート、雪の大谷 ★★: 黒部ダム ★: 黒部峡谷鉄道、宇奈月温泉、立山博物館〕</p>
	14 多言語表記、案内の充実	<ul style="list-style-type: none"> 立山黒部貫光(株)において、立山駅や室堂ターミナルにデジタルサイネージを設置し、多言語による情報発信 など
	22 環境意識の啓発	<ul style="list-style-type: none"> 訪日旅行客に対応できるナチュラルリストを養成
	23 山岳トイレの整備	<ul style="list-style-type: none"> 環境保全に配慮したトイレを順次整備中。H29は水晶小屋の整備完了
②課題解決に向け情報収集・検討中 (12プロジェクト)	02 アルペンルートの営業時間拡大	<ul style="list-style-type: none"> 来年度の繁忙期の早朝における営業時間拡大の試験的实施を検討。併せて、繁閑期の分散に向けた取組みについて検討
	17~19 ロプウェイの整備	<ul style="list-style-type: none"> 最新鋭のロプウェイ「スカイウェイ・モンテ・ビアンコ」(イタリア)を視察・運営会社社長と意見交換
③課題整理中 (6プロジェクト)	08 アルペンルート冬季営業	<ul style="list-style-type: none"> 安全性等の確保のために必要なデータの収集を今年度の降雪期から実施予定

01 混雑スポットにおける食事・休憩スペース拡充

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 立山黒部貴光(株)を中心に、まずは室堂ターミナルにおいてオープンテラスの設置を検討。(H30夏ごろの運営開始を目指す)
- 室堂ターミナル以外の場所でも設置を検討。



混雑する室堂ターミナル

◎ 検討状況

※立山黒部貴光において検討

《現状》

- ・ 室堂ターミナルの屋上に、活用可能なスペースがある。
- ・ 本格的な施設の設置は、室堂ターミナルの改修時期との調整が必要。

● H30夏から室堂ターミナル屋上にオープンテラスを試験的に設置予定

【施設・設備について】

- ・ 悪天候も想定した設備(机椅子など)の設置運営方法を検討中

【食事等について】

- ・ 富山らしい食材を活用した、軽食や地酒の販売などを検討中

◎ 今後の検討事項

● 富山らしい食事内容の検討

- ・ 観光客の満足度を高めるため、「富山らしい」食事内容の検討
(海の幸と山の幸のコラボレーションなど)

● 計画的なオープンテラスの設置

- ・ 室堂ターミナルの改修に合わせ、本格的オープンテラスの設置を検討
- ・ より上質な食事を提供するため、調理設備の設置を検討



クルムホテルのオープンテラス
(出所)クルムホテルHP

02 アルペンルートでの営業時間拡大

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 安全確保や環境保全に配慮しつつ、営業時間の拡大範囲や、拡大方法を検討
- 早朝や夕方、夜の魅力を活かした滞在プログラムを検討。



弥陀ヶ原ホテル 洋食堂から見える夕景

◎ 検討状況

※第1回及び第2回WGにおいて検討

《WGでの主な意見》

- ・ 山の世界は、早出・早着が基本。
- ・ 夜間通行には安全施設(街灯・ガードレールなど)が必要。自然環境にも影響がある。
- ・ 夜間はヘッドライトなどが必要であるが、観光客は持たない場合が多く危ない。
- ・ スキーヤー・登山客は朝が早い。早朝の前倒しは混雑緩和効果があるのではないか。
- ・ 立山駅からの代替輸送の強化は考えられないか。

【早朝の営業時間の前倒しについて】

- ・ 繁忙期の日の出時刻の早い時期に、営業時間拡大の試験的実施を検討
(立山駅の5時出札・6時運行開始の前倒しを検討)

スキーヤーや登山客など(4月)



【夕方・夜間の営業時間の後ろ倒しについて】

- ・ 安全性や環境保護上の課題をクリアする必要

◎ 今後の検討事項

● 早朝の営業時間拡大に向けた条件整備と効果検証

- ・ 労務関係、拡大時期・拡大幅など、試験的実施に向けた環境整備
- ・ 試験的実施の効果検証、更なる拡大に向けた課題の整理

● 入込数の分散に向けた取組み

- ・ 営業時間の拡大と並行して、混雑対策として、閑散期の魅力を伝え、観光客の平準化を図る取組みを実施

05 宿泊施設の整備

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 立山黒部貫光(株)を中心に、WGを開催
- 立山黒部アルペンルート内に宿泊施設を有する各事業者において、施設やサービス面での高付加価値化に取り組むとともに、宿泊施設の建替え・新築の検討



◎ 検討状況

※第1回及び第2回WGにおいて検討

《これまでの会議・WG等での主な意見》

- ・旅行者の目的やニーズに沿った **多様な宿泊施設が必要**。
- ・それぞれの **ターゲットとなる客層を踏まえて、クオリティを磨き上げ続けることが大事**。
- ・あまりに急速な高付加価値化は経営的に厳しい面がある。

○ 室堂・天狗平地区の **宿泊施設にヒアリング**を実施し、次のような意見を得た。

《主な意見》

- ・立山黒部の山小屋は、国内の **山小屋の中ではレベルが高い**といわれている。
- ・山小屋も **客層が多様化**している。(登山・スキー客中心から観光目的の個人客化)
- ・登山人口が減少傾向にあり、今後の経営に対し危機感がある。
- ・施設の老朽化により建替えなどが必要な施設がある。

⇒ 宿泊施設ごとの特徴や強みによって、**ターゲットとなる客層は違う**のではないかと。

⇒ 「**高付加価値化とは、ターゲットとなるお客様のニーズを把握し、その期待に応えていくことである**」という認識をワーキングメンバーで共有した。

◎ 今後の検討事項

- 高付加価値化の方向性の整理
 - ・各施設により、高付加価値化の意味するものが異なることから、ターゲットに応じた各施設の方向性を整理
- アンケート調査等の実施
 - ・アルペンルート来訪者に対するアンケート調査の実施

立山黒部アルペンルート内の宿泊施設

1泊あたりの宿泊料金(円)
※大人1人・1泊宿泊料金(8月HP等・2食付)

40,000円
30,000円
20,000円
10,000円

宿泊料金

多様なニーズに応えるため、この価格帯の宿泊施設が整備されることが望ましいのではないかと。

・ホテル立山
・弥陀ヶ原ホテル
・立山高原ホテル

・国民宿舎天望立山荘

・山小屋

付帯施設

(出所)クルムホテルHP



高付加価値化の例(クルムホテル オープンテラス) 4

06 滞在プログラムの充実

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 立山黒部貫光(株)を中心に、WGを開催。
- 滞在プログラムの充実のため、ガイドが活動・参入しやすいプラットフォームを整備。



キャニオニング

(出所)J-WET Adventures



森林セラピーちようこりコース

(出所)株エコロの森

◎ 検討状況

※第1回、第2回WGにおいて検討

《これまでの会議・WG等での主な意見》

- ガイドの方々が**積極的にプログラムを開発していけるような環境**をつくるのが非常に重要
- 危険な場所などの**情報共有**、プログラム開発における**情報交換**などの活動ができれば、ガイド活動に広がりが出てくる
- 滞在プログラムの提供事業者が、環境省・林野庁等に対し、様々な**ルールの変更等について提案・協議する場**を定期的に設けることも有効



○ まずは立山エリアにおいて、今後、以下の項目を実施予定

1. ポータルサイトの開設

例：立山エリアで提供されている滞在プログラムの情報を集約し、来訪者に一元的な情報発信・提供を行うため、ポータルサイトを開設

2. 関係者連絡会議の開催

例：プログラムの充実やレベルアップ等を図るため、滞在プログラムの提供(事業)者やその他関係者間での情報共有・情報交換の場を設置

3. 先進地・成功事例地域の視察

4. 研修会の開催

例：滞在プログラムの提供(事業)者や通訳案内士を対象としたインバウンド向けのプログラム開発研修を開催



野鳥の森
ネイチャーウォッチング

(出所)ピッキオ

◎ 今後の検討事項

- プラットフォームのあり方 (例：ガイドが活動・参入しやすい環境とはどのようなものか)
- 多様な滞在プログラムの提供 (例：訪日旅行者の求めるツアーとはどのようなものか)
- ガイドの質の確保 (例：ツアー参加者の評価をフィードバックする仕組みづくり)

《今後実施を検討する事項》

- ・ツアーデスクの設置
- ・ポータルサイトの運用



ツアーデスクにおける
旅行案内

(出所)内閣府資料

07・08 アルペンルートの早期開業・冬季営業

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 立山黒部貫光(株)を中心に、WGを開催。
- 気象データなどを収集・分析。安全性や環境に与える影響などの課題や実施条件について整理し、可能性について検討。



室堂のスキー客

◎ 検討状況

※第1回、第2回WGにおいて検討

《WGでの主な意見》

- データ収集・検証を行い、早期開業・冬季営業が可能と判断されるのであればよいのではないかと。
- 安全性に加え、除雪能力の確保・向上も課題
- 安全性の確保については、除雪関係だけでなく、スキーヤーなどの安全確保も含めて検討が必要。

1. データの収集・検証

- 実施の可能性を検証するため、この冬から気象関連データの収集を開始

2. 除雪能力向上の検討

- 除雪作業員のスキルアップ、除雪機械の新規購入など除雪能力の向上に向けた検討を進める

◎ 今後の検討事項

- 安全性の確保
 - 気象関連データを収集し、その結果を踏まえた検討を行う
- 環境や生態系への影響

09 黒部峡谷鉄道の冬季営業

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 黒部峡谷鉄道(株)を中心に、WGを開催。
- スノーシェッドの設置など安全性の確保や採算性、商品としての魅力について検討。

冬の黒部峡谷鉄道(新山彦橋)
(出所)(一社)黒部・宇奈月温泉観光局

◎ 検討状況

※第1回WGにおいて検討

《WGでの主な意見》

- 雪崩対策など、安全の確保が一番の課題である。

1. スノーシェッドの設置の検討

- 安全対策のため、スノーシェッドの設置必要箇所を検討
- 設置にあたっては、景観に配慮した構造の検討が必要

2. 車両整備業務との調整

- 冬季期間に行っている車両整備業務との人員調整について検討

◎ 今後の検討事項

- 安全対策
 - スノーシェッドの設置以外にも、車両・施設の改修や除雪作業も課題
- 魅力ある滞在プログラムの提供
 - 宇奈月温泉とも連携し、どのような過ごし方を提供し、冬の誘客につなげることができるか



宇奈月温泉街

11 黒部ルート見学会の一般開放・旅行商品化

◎ 推進体制・取り組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議より

- 富山県と関西電力(株)を中心に、WGを開催。
- 旅行商品化、見学者枠の拡大等について具体的な課題整理・解決策の検討を行う。



縦坑エレベーター



高熱隧道

(出所) Google earthをもとに作成

《黒部ルート》

黒部ダムと黒部峡谷の榎平を結ぶルート。黒部川第三発電所、第四発電所の建設などに伴い、関西電力(株)が工事専用軌道として整備したもの。現在、公募見学会が行われているが、一般の観光客には開放されていない。

黒部ルートの敷地は、国(林野庁)が所有しており、関西電力が国と賃貸借契約を結んだ上で使用。

◎ 検討状況

平成29年10月11日 WG開催

富山県からプロジェクトの具体的な内容等について改めて説明を行うとともに、関西電力から安全対策の案が示された。

《WGでの主な意見》

- ・旅行商品化し、参加者の目的が「見学」から「観光」に変わること、安全に対して求められる水準が上がるため、落盤防止対策の強化や車両の対策、避難誘導設備の設置などの追加の安全対策が必要(関西電力)。
- ・「公募見学者、社客、工事関係者」も「観光客」も黒部ルートを通る行為自体は同じであり、求められる安全対策も同じなのではないか。

◎ 今後の検討事項

- 追加の安全対策の必要性
 - ・「観光目的の参加者」に特化した安全対策が必要になる根拠は何か。
- 旅行商品化の具体的な内容、実施体制等
 - ・どのような内容・体制であれば、実現可能か。(責任の所在、運営費用負担等を含む)
- 見学者枠の拡大
 - ・安全かつ発電事業に支障なく通過できる人数の精査。
 - ・現在の運用状況を把握するため、社客見学会の実態を把握する必要がある。
- 土・日・祝日の一般客への開放
 - ・すでに社客には開放されており、すぐにでも実施できるのではないか。

11 参考：関西電力黒部ルートに関する経緯

時期	出来事
昭和31年6月	<p>関西電力より厚生大臣に誓約書提出</p> <p>黒部川第四発電所着工に際し、関西電力より厚生大臣に誓約書提出</p> <p>【誓約書の一部】</p> <p>建設工事が許可された場合は、(中略)厚生省、関係県の指示に従うものとし、特に別記事項については完全に履行することを誓約致します。</p> <p>8. 黒部ルートは工事竣工後は支障のない限り国立公園の利用に供し西沢小沢等の横坑はその位置で指示に従い通路又は展望地点として整備すること。</p>
昭和31年6月	<p>厚生大臣から関西電力に条件付きで許可書交付</p> <p>厚生大臣から関西電力に対し、国立公園特別地域内の工作物新築等に係る許可書を条件を附して交付</p> <p>【許可書記載の条件】</p> <p>11. 工事用として建設される道路は、工事竣工後はこれを公衆の利用に供すること。</p> <p>12. 黒部川左岸旧日電歩道は、国立公園歩道としてこれを維持し、公衆の利用に供すること。</p> <p>14. 以上各号の条件に違反した場合には、許可を取消し、原状回復を命ずることがあること。</p>
昭和41年4月	<p>関西電力から厚生大臣に文書を提出</p> <p>関西電力から厚生大臣に対し、安全性の問題や発電所運営上の支障があることから、黒部ルート((1)黒部トンネル、(2)インクライン、(3)高熱隧道、(4)豎坑)の開放はできない旨の文書を提出</p>
平成8年2月	<p>黒部ルート公募見学会の開始</p> <p>県と関西電力との間で①平成8年に1,000人程度(H10～2,040人に拡大)の公募見学会を実施、②黒部川流域調査検討協議会の設置について合意したことを記者発表</p>
平成27年5月	<p>パノラマ展望ツアーの運行開始</p> <p>黒部ルートの一部(専用鉄道、豎坑エレベーター)を活用した「黒部峡谷パノラマ展望ツアー」を運行開始(樺平駅周辺上部にパノラマ展望台を整備。展望台へのルートとして、黒部ルートの一部を活用)</p>

現状

黒部ルート見学会は、黒部峡谷のすばらしさや電源開発の歴史を体感することができる貴重な機会であるが、年間の定員が2,040名に限定され、また、参加者は抽選で決定されていること、見学会が平日のみに開催されていることなどから、参加できる方が非常に限定されている。



黒部ルート見学会の充実・拡大を図る

(1) 現在、安全かつ発電事業に支障なく通過している見学者枠程度
又は若干増についての旅行商品化

短期

(2) 安全性の確保を前提とした見学者枠の拡大

短・中期

プロジェクトの内容

プロジェクトで提案されている要素 (現在の公募見学会からの変更点)	メリット
<p>①見学者枠の拡大</p> <p>(1)まず、「安全かつ発電事業に支障なく通過している見学者枠 (年間約5,000人)程度又は若干増」</p> <p>(2)次に、「安全性の確保を前提とした見学者枠の拡大」</p>	<p>より多くの方々へ見学機会を提供できる。黒部峡谷のすばらしさや電源開発の歴史を多くの方に体感していただけるほか、発電事業に対する理解促進にもつながる。</p>
<p>②見学会の土・日・祝日実施</p> <p>例えば 平日:4便×30名×34日=4080人 土日祝日:10便×30名×60日=18000人 計2万2千人</p>	<p>これまで平日の参加が難しかった若い世代など、より広範な方々の参加が可能になる。</p>
<p>③見学者の選び方の変更 (公募抽選方式⇒予約先着方式)</p> <p>※参加可能な方の範囲(小学5年生以上、乗り物の乗降や階段の歩行に支障のない方等)は従来と同じ</p>	<p>申込みと同時に確定することで、より広範な方々の参加が可能になる。また、旅行計画を早い段階で立てることができ、県内観光や宿泊場所の選択肢が増える。</p>
<p>④県内宿泊・周遊等の促進</p>	<p>県内宿泊・県内観光と一体となった旅行の提案により地元経済への波及効果が期待できる。</p>

11 参考:プロジェクトの具体的内容①

①見学者枠の拡大

現在の公募見学会は定員が2,040名に限定されており、当選倍率は平日に限られているにも関わらず極めて高いことから、見学会に参加できる方はごく少数。

見学会の枠を拡大することで、より多くの方々へ見学機会を提供できる。黒部峡谷のすばらしさや電源開発の歴史を多くの方に体感していただけるほか、発電事業に対する理解促進にもつながる。

・黒部ルートの間年総輸送量 約20,000人
このうち関西電力 約18,000人
〔 工事関係者 約15,000人 〕
〔 社 客 約3,000人 〕
一般公募 2,040人

現在、安全かつ発電事業に支障なく通過している「現行の見学者数」について議論するためには、社客見学会の実態について把握する必要がある。

	公募見学会 (A)		社客見学会 (B)		現行の見学者枠 (A)+(B)	
	平日	土日祝日	平日	土日祝日	平日	土日祝日
実施日	○	×	○	○	公募・社客	社客のみ
	34日間	—	?日間	?日間	?日間	?日間
対象 (選び方)	一般人(抽選)		社客(招待)		一般人(抽選) 社客(招待)	
便数/日	2便 樺平→黒部ダム 黒部ダム→樺平		?		?	
定員/便	30人		20人?		20人?~30人	
年間定員	2,040人 (30人×2便×34日)		約3,000人 (20人×2便×75日?)		約5,000人	

1日2便と仮定すると
最少計75日間?

最少計109(34+75)日間?

②見学会の土・日・祝日実施

現在の公募見学会は平日のみの開催であるため、参加できる方が限定されている。

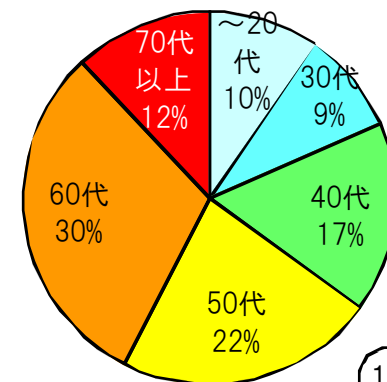
現在、社客のみに開放している土・日・祝日を一般向けに開放することで、これまで平日の参加が難しかった若い世代など、より広範な方々の参加が可能になり、応募者の飛躍的な増加が見込まれる。

公募見学会実施概要

- ・参加費 無料
- ・催行 平日のみ 34日(6~11月(週1~2日)実施)
- ・定員 1日2便、各便30名
(樺平出発コース、黒部ダム出発コース)
- ・年間枠 34日×2便×30名=2,040名
- ・倍率(直近3年間)

年度	募集定員	応募者数	当選倍率
26年度	2,040名	7,595名	3.72
27年度	2,040名	8,862名	4.34
28年度	2,040名	8,762名	4.30

参加者の年齢別割合(平成28年度)
(アンケート結果より(N=1,865名))



11 参考:プロジェクトの具体的内容②

③見学者の選び方の変更 (公募抽選方式⇒予約先着方式)

現在の公募見学会は応募してから抽選までの期間(最大約3か月半)は当落が不確定な状態が続く。また、当選しなかった場合は、応募者への結果連絡はない。

予約先着方式に変更することで、申込みと同時に参加が確定する。これにより、より広範な方々の参加が可能になるとともに、旅行計画を早い段階で立てることができ、県内観光や宿泊場所の選択肢が増える。

④県内宿泊・周遊の促進

県内での宿泊、観光と一体となった旅行を提案することで、地元経済への波及効果が期待できる。また、見学会参加者の満足度向上にもつながる。

※旅行商品として販売した場合においても、黒部ルート見学会自体は無料とする。

公募見学会応募期間 (平成29年度)

応募(5/1)から締切(8/16)・抽選まで約3か月半不確定

回数	見学日	応募締切日	応募受付開始日	回数	見学日	応募締切日	応募受付開始日	
第1回	6月7日(水)	4月26日(水)	3月6日(月)	第18回	8月31日(木)	7月18日(火)	5月1日(月)	
第2回	6月8日(木)	4月26日(水)		第19回	9月7日(木)	7月26日(水)		
第3回	6月14日(水)	4月28日(金)		第20回	9月8日(金)	7月26日(水)		
第4回	6月15日(木)	4月28日(金)		第21回	9月14日(木)	8月2日(水)		
第5回	6月21日(水)	5月10日(水)		第22回	9月21日(木)	8月9日(水)		
第6回	7月12日(水)	5月31日(水)		第23回	9月25日(月)	8月14日(月)		
第7回	7月13日(木)	5月31日(水)		第24回	9月28日(木)	8月16日(水)		
第8回	7月19日(水)	6月7日(水)		第25回	10月5日(木)	8月23日(水)		7月3日(月)
第9回	7月20日(木)	6月7日(水)		第26回	10月6日(金)	8月23日(水)		
第10回	7月28日(金)	6月15日(木)		第27回	10月12日(木)	8月30日(水)		
第11回	7月31日(月)	6月15日(木)		第28回	10月19日(木)	9月6日(水)		
第12回	8月4日(金)	6月22日(木)	第29回	10月23日(月)	9月11日(月)			
第13回	8月9日(水)	6月28日(水)	第30回	10月26日(木)	9月13日(水)			
第14回	8月10日(木)	6月28日(水)	第31回	11月1日(水)	9月20日(水)			
第15回	8月23日(水)	7月12日(水)	第32回	11月2日(木)	9月20日(水)			
第16回	8月24日(木)	7月12日(水)	第33回	11月8日(水)	9月27日(水)			
第17回	8月28日(月)	7月18日(火)	第34回	11月9日(木)	9月27日(水)			

※当選者へは必要書類の発送(各応募締切日から1週間以内)をもって当選通知(抽選に外れた方への連絡はしていない。)

11 参考：旅行商品化案

旅行商品の一例

交通費	新幹線(東京から往復) 25,000	
	県内(黒部峡谷鉄道、アルペンルート等)	12,000
	黒部ルート区間	無料
宿泊代	35,000(2泊分)	
ガイド料、保険料	3,000	

2泊3日の県内周遊プラン

料金(想定): 7万5千円

販売量: 2万2千人分

(平日各4便×30名×34日、土日祝日各10便×30名×60日)

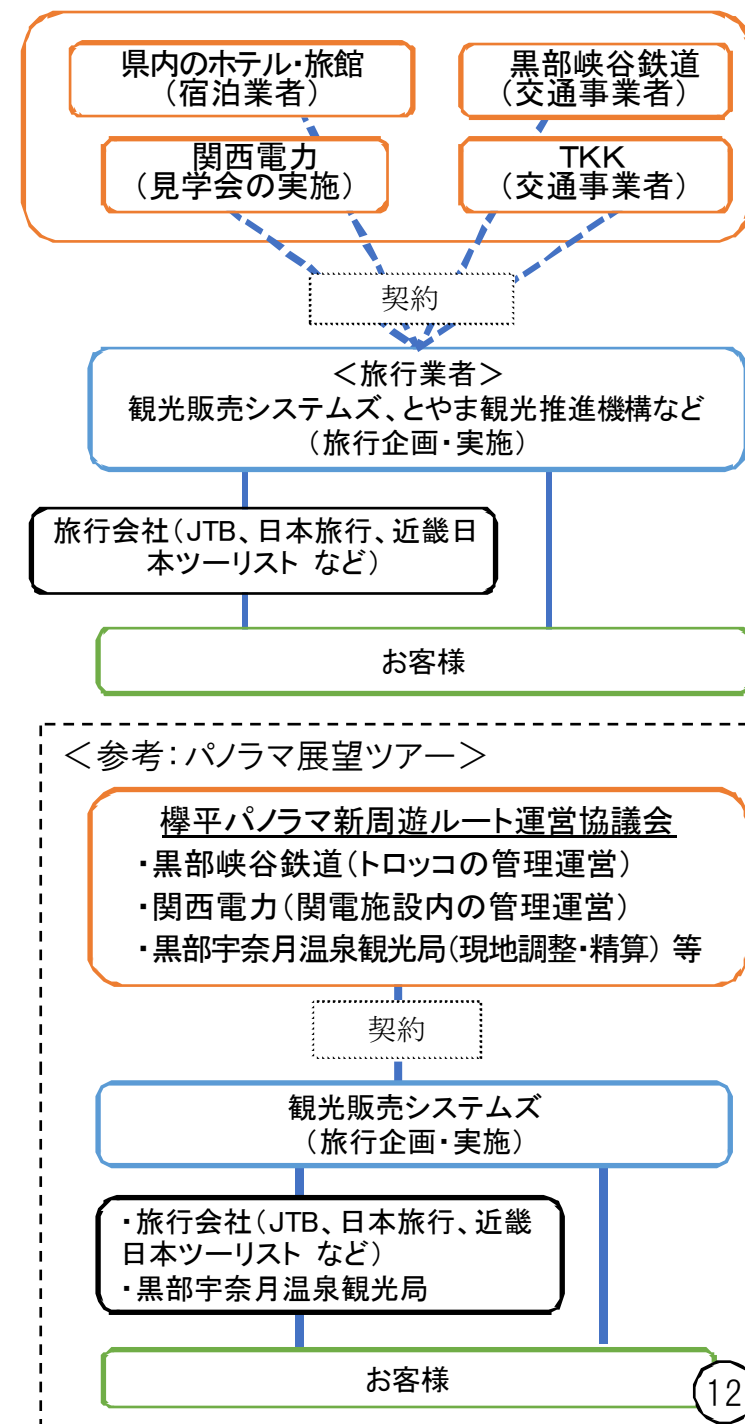
実施体制: 旅行業者が各サービス提供者と契約し、旅行商品を企画・実施
 旅行業者はお客様へ直接又は他の旅行会社を通じて旅行商品を販売
 ※パノラマ展望ツアーと同様の体制を想定

- ・黒部ルート見学会は無料とする ※ただし、ガイド料、保険料のみ検討
- ・黒部ルートの設備(輸送能力等)・輸送条件(スピード等)は現行のとおりとする
- ・「見学会の目的は発電事業の理解促進であること」、「観光目的の施設ではないため一般交通機関と同等の安全設備は備えていないこと」及び「ヘルメット着用など現行の公募見学会で実施している安全対策(ソフト面)を遵守すること」に同意したうえで参加

行程(案)

1	東京===黒部宇奈月温泉駅【宇奈月温泉観光・宿泊】
2	宇奈月駅=樺平駅=【黒部ルート見学会】<無料>=黒部ケーブルカー等=室堂【宿泊】
3	室堂=立山高原バス等=立山駅==富山駅【富山市内観光】===東京

実施体制イメージ図



11 参考:これまでの検討状況①

平成28年度

「『立山黒部』の保全と利用を考える検討会」を設置

⇒「立山黒部」の世界ブランド化に向けた28のプロジェクトの1つとして

「黒部ルート見学会の旅行商品化プロジェクト」が提案される

「『立山黒部』の保全と利用を考える検討会」中間報告書より抜粋

◎ 課題・論点

○アルペンルートと黒部峡谷は、それぞれ異なる特有の自然景観や魅力を有するが、周遊することができない。

○電源開発の歴史を活かし、さらなる観光需要の創出が必要

6/1本体会議において勝田常務のご発言により、約5,000人であることが明らかになった

◎ 委員提案の解決例

黒部ルート見学会の旅行商品化

<とりまとめ>

ワーキンググループにおいて、具体的な課題整理・解決策の検討などを行う。

【メンバー(案)】有識者

本省課長クラス(観光庁、国交省、環境省)

北陸信越運輸局

関西電力(株)、黒部峡谷鉄道(株)、富山県など

○現在、安全かつ発電事業に支障なく通過している見学者枠(公募枠・社客枠合計約4,000人)程度又は若干増について、旅行商品化に向け、検討を行う。その際には、県外からの参加者については県内での宿泊を条件とするなど、地域の観光事業者等との連携の在り方について検討。

短期

○次の課題として、安全性の確保を前提として、旅行商品化による見学者枠の大幅拡大等について検討。

短・中期

富山県のみならず、**国の観光立国の推進の観点からも非常に重要なプロジェクト**

「明日の日本を支える観光ビジョン」(抜粋)

魅力ある公的施設・インフラの大胆な公開・開放

○我が国の歴史や伝統に溢れる公的施設を大胆に一般向けに公開・開放

○地域振興に資する観光を通じたインフラの活用

国立公園の「ナショナルパーク」としてのブランド化

○日本の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」に

○「国立公園満喫プロジェクト」として、まずは5箇所国立公園で

「国立公園ステップアッププログラム2020」(仮称)を策定。2020年までに、外国人国立公園利用者数を年間430万人から1000万人に増やすことを目指す

地方部での外国人延べ宿泊者数

○地方部での外国人延べ宿泊者数については、2020年には2015年の3倍近い増加となる7000万人泊、2030年には5倍を超える1億3000万人泊を目指す

11 参考:これまでの検討状況②

平成29年6月1日

第1回「『立山黒部』世界ブランド化推進会議」開催

- ・検討会で提案されたプロジェクトについて、改めて説明し、プロジェクトの推進体制、スケジュールイメージを共有
- ・次回の会議に向け、7月、9月にWGを開催することを確認
- ・黒部ルートに関して、座長(東京大学大学院 西村教授)から「関西電力さんのかなり細かいデータも出していただいて、それをもとに(WGにおいて)議論していくので、ご協力をお願いしたい」とのとりまとめ

会議では関西電力(株)勝田常務から以下のご発言

- ・「旅行商品化の意義について理解しており、前向きに検討していきたい」
- ・「社客枠は、電力自由化が始まっている中で、関西電力の営業戦略として重要であり、これを旅行商品化することは耐え難い」

・県から関西電力へWGの開催要請

⇒関西電力から「安全対策の検討が終わるまで具体的な話はできない。検討に時間を要するため、検討がまとまった段階でWGを開催されたい」との返答

・「旅行商品化」の内容、実施方法など具体的な内容に関する協議

⇒関西電力から「旅行商品化の詳細については、安全対策の検討結果をもってお話をさせていただきたい」との返答

7月～9月

6/1第1回会議における関西電力勝田常務のご発言(抄)

・やはり県の方から、旅行商品化を進められるということについての意義と期待は、大変理解いたします。関西電力としても、地元企業としてですね、やはり、協力してまいりたいと思っておりますので、前向きに検討していきたいと考えております。

・だいたい今の輸送量のトータルでですね、人数というものに換算しますと大体年間の輸送量は20000人程度。その内ですね、私どもの工事の関係、あるいは作業員、資材が、大体、年によって工事量によってだいぶ動きますけれども、約15000人ぐらいが、そういう発電所の維持運用のために使われております。残りの5000の内ですね、公募が2000人と、残りの3000の内、それは工事量のバッファーが入ってくる訳ですけれども、その隙間で社客を運用させていただいているということでございます。

・電力自由化とかも始まりまして、お客さんとか営業関係の方も私どもお連れしてですね、当社のそういう戦略の一つとなっております。そういう意味では、非常に重要な要でございますので、社客の部分をですね、これに加えられるということは、非常に私どもとしては耐え難いと思っております。

・お金をとって、観光客に通っていただくということになりますと、やはり、私どもに求められる安全対策のレベルというものは、今のままでは不十分であると言うのが私どもの考えでございます。

平成29年10月11日 **WG開催**

上部専用鉄道

10月11日開催ワーキンググループ
関西電力(株)提出資料



- 昭和14年に黒部川第三発電所の建設のため、櫛平豎坑上部から仙人谷まで、約5.7 kmが作られました。
- 阿曾原～仙人谷間の約500 mにわたり、岩盤温度が高く高熱地帯になっていることから、高熱隧道と呼ばれ工事は難航を極めました。
- 黒部川第四発電所の建設にあたり、仙人谷からさらに上流に800 m延長しました。
- 総延長約6.5 kmをバッテリートロッコ電車で移動します。



上部専用鉄道（客車）

10月11日開催ワーキンググループ
関西電力(株)提出資料



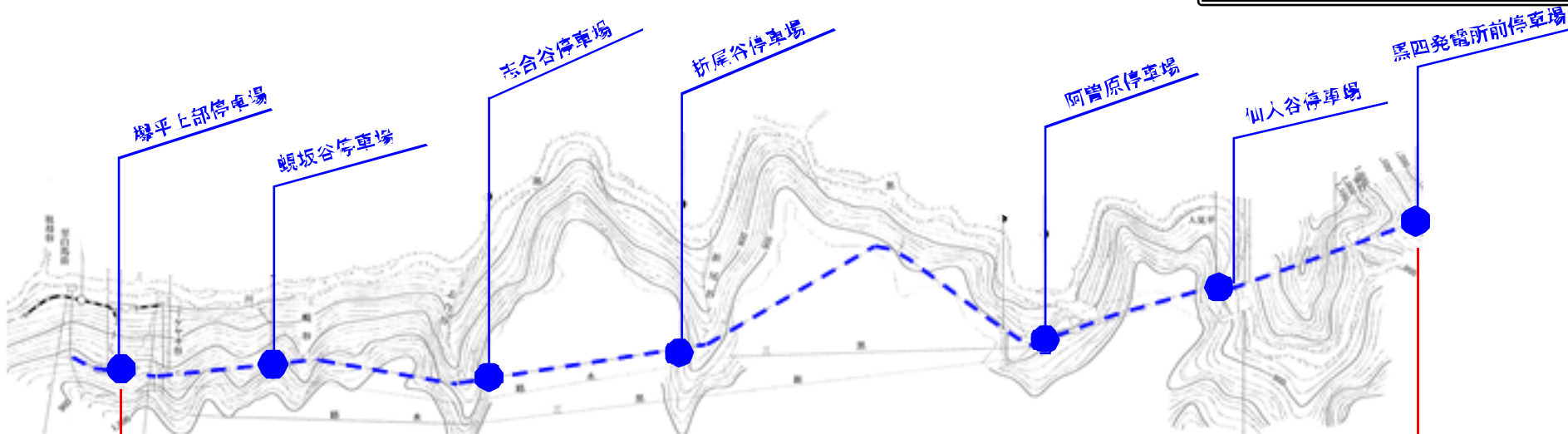
上部専用鉄道 (トンネル内部)

10月11日開催ワーキンググループ
関西電力(株)提出資料



上部専用鉄道（トンネル内部）

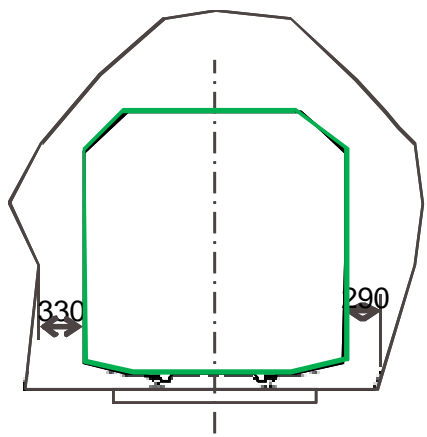
10月11日開催ワーキンググループ
関西電力(株)提出資料



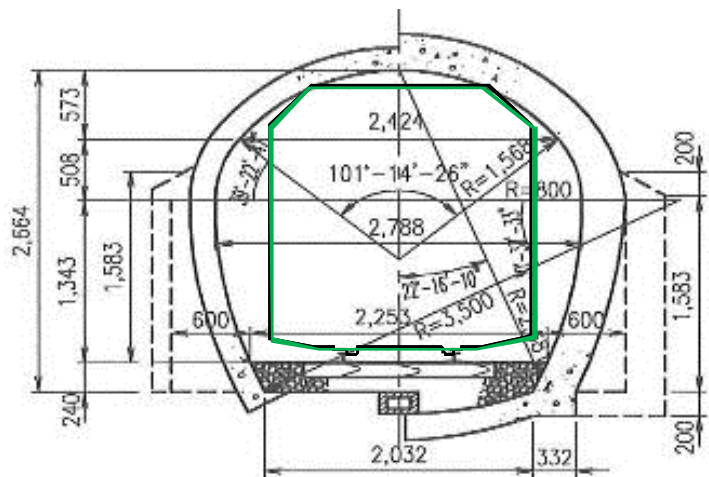
上部軌道(榎平上部～黒四発電所) 延長6.5km : トンネル(巻立部1.9km(カルバート部0.3km含む)、素堀部(吹付含む)4.5km)、明かり0.1km

■ : 素堀り箇所(吹付含む) ■ : 巻立箇所 ■ : カルバート箇所

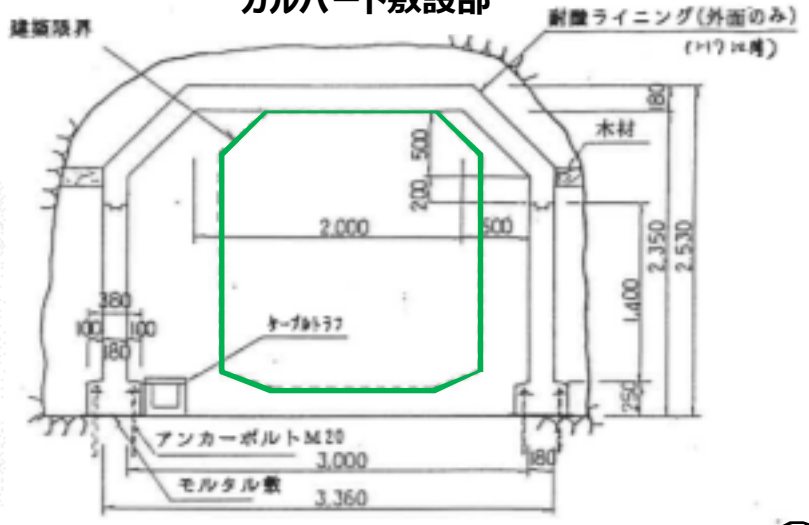
素堀りトンネル部



巻立トンネル部



カルバート敷設部



— : 専用鉄道の建築限界

参考（トンネル内部の点検）

10月11日開催ワーキンググループ
関西電力(株)提出資料

点検の様子



- 上部専用鉄道においては、定期的に点検および浮石処理を実施しているものの、落盤の危険性がないとは言えません。

11 参考:関西電力(株)の安全対策に関する考え方等

10月11日開催ワーキンググループ
関西電力(株)提出資料より抜粋

旅行商品化に対する基本的な考え方

〔現行〕

○黒部ルートは、ダムおよび発電所の保守・工事用の最低限の設備にすぎず、公募見学会の実施については、電気事業にご理解を深めていただくという目的に限り、当社事業の一環として、当社の責任と判断で安全を確保できる範囲で実施しているものです。

〔旅行商品化に際して〕

○広く観光を目的とした旅行商品では、法令や社会的責任を踏まえ、黒部ルートの管理運用を行う当社の責任の内容も異なります。また、当然、お客さまの求められるもの、要求水準も高まるため、商品として販売される以上、増加するインバウンドへの対応も含め、ハード面、ソフト面をそれに見合ったものにしていく必要があると考えています。

○トンネルの落盤対策や避難経路の整備等が十分でないことから、安全面における課題があると考えています。

○立山黒部の世界ブランド化にふさわしい旅行商品のご提供に当たっては、一般の観光客をご案内するための安全確保として必要な安全対策について、鉄道関係の専門家、弁護士、旅行会社などのご意見をお聞きしたうえで、当社が必要と判断したハード面、ソフト面の安全対策を講じていく必要があると考えています。

〔旅行商品化の具体的内容について〕

○旅行商品化にあたっては、当社側がその主体となることは難しいものの、黒部ルートを一般の観光客にご利用いただく観点から、その実施方法、実施体制、責任の所在、安全対策や運営費用の負担などについて、ご要請をいただいている富山県から、具体的な内容をお示しいただいた上で、協議をさせていただきたいと考えております。

旅行商品化に向けた安全対策等

○以上の考え方に基づき、旅行商品化を開始するにあたり必要な安全対策工事は次の通りと考えています。

- ・落盤防止対策の強化
- ・車両の対策
- ・避難誘導設備の設置等

○また、電力供給支障事故を防ぐ観点からも、電力保安設備の対策工事の実施が必要となります。

対策の種別	事象の例	安全対策(案)の例
落盤対策	脱線 人身被害	未補強のトンネル部について、物理的な対策工事を実施 (既に実施済みの補強対策やトンネル内の地質などを考慮し、場所毎の必要性を評価した上で検討) 【具体例】・ロックボルト+金網設置+モルタル吹付け ・カルバート未設置部へのカルバート設置等 ＜実施済みの対策＞・落石防止柵の設置等
車両対策	脱線 火災 人身被害	・ATS(自動列車停止装置)の装備 ・EB(緊急列車停止装置)の装備 ・貫通口、貫通路の設置 (車両の最後部の後端からスムーズに避難できるように整備) ・車止装置の設置等 ＜実施済みの対策＞・ブレーキの二重化、貫通ブレーキの設置 ・無線整備等
避難誘導対策	脱線 火災 人身被害	・避難通路の整備(照明、誘導灯、レール間踏板設置等) ・避難場所の整備等 (予備電源による換気設備、照明、自動火災報知設備、不燃化等) ＜実施済みの対策＞・無線整備等
その他 (ソフト面の安全対策)		＜実施済みの対策＞ 見学者の安全確保の観点から、以下のルールを制定。 ・係員の指示に従うこと ・小学校5年生以上で乗り物の乗降や階段の歩行に支障のないこと(小学生は保護者同伴要。) ・ヘルメットの着用 ・行動しやすい服装と手荷物を少なくすること ・杖、車イスなどの歩行補助器具を使用しての通行禁止

11 参考:追加の安全対策の必要性について

観光目的になると求められる安全レベルが変わるというのは県民・国民の理解が得られないのではないか。

仮にそうした主張に立ったとしても、実施目的や参加条件を現在の見学会と同様としたうえで、参加者に事前に同意してもらえば問題ないのではないか。

(例)

○ 見学会の目的は「電気事業への理解促進」であることを事前に理解してもらう

・・・現行の公募見学会においても「見学会は観光を目的としたものではないため、各種乗り物は一般交通機関と同等の安全設備を備えていない」ことが事前に周知されている。

旅行商品化した場合も留意事項として記載し、事前に書面で同意をもらえばどうか。

○ 公募見学会と同様の参加条件(小学5年生以上、乗り物の乗降や階段の歩行に支障のない方等)を設定する

・・・既に旅行商品化されている「パノラマ展望ツアー」においても同様の条件がある。

○ ヘルメットやマスクの着用を義務付ける

・・・「パノラマ展望ツアー」においても安全確保のため、参加者にヘルメットを着用してもらっている。

○ 係員の指示に従わない参加者については乗車・参加を拒否

参考:「黒部峡谷パノラマ展望ツアー」

(平成27年度から旅行商品として販売)

<概要> 黒部ルートの一部を活用した旅行商品
(トロッコ電車、豎坑エレベーター、峡谷・展望台散策)

<実施期間> 6～11月の金土日月(1日4便)

<料金> 大人:5,000円、子供:3,200円

<定員> 1便あたり53人(年間約2万人)

<参加条件> ・小学5年生以上

・乗り物の乗降や登山道の歩行などに支障のない方

<留意事項として参加者に事前周知している事項>

- ・安全確保のためヘルメットを着用すること
- ・参加者は自己責任において体調管理・行動すること
- ・案内人の指示に従わない場合、参加をお断りすること
- ・参加者の過失等により発生した怪我等については責任を負いかねること
- ・受付の際に危険物等の持ち込みがないか確認させていただくこと



21 登山道の整備

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議より

- 富山県を中心に、WGを開催。
- 「弥陀ヶ原～大日平の吊橋復元」といった、魅力的で周遊性の高いルートの構築について検討を進める。
- 山小屋等の意見を聞きながら、案内看板・道標等の再整備と多言語化、登山道のクオリティアップを実施する。



(出所)Google Earthをもとに富山県が作成



ボランティアによる安全対策



植生に配慮した木道整備

◎ 検討状況

※第1回、第2回WGにおいて検討

《WGでの主な意見》

- 登山道等は、**順次再整備**が必要
- 歩くアルペンルートに緊急時の途中待避、避難経路を示す**標識整備**が必要

1 登山道等の整備を、国の補助事業を活用するなどして**計画的に実施**

- ・登山道の整備（歩くアルペンルートの整備等）
- ・**木道の新設、再整備**（植生の踏み荒らしを防止）
- ・案内看板、道標の整備（多言語化やデザインの統一）
- ・県民協働ボランティア（木道への滑止め板設置、外来植物除去）
- ・**環境配慮型トイレ**の整備（土壌処理循環型等）

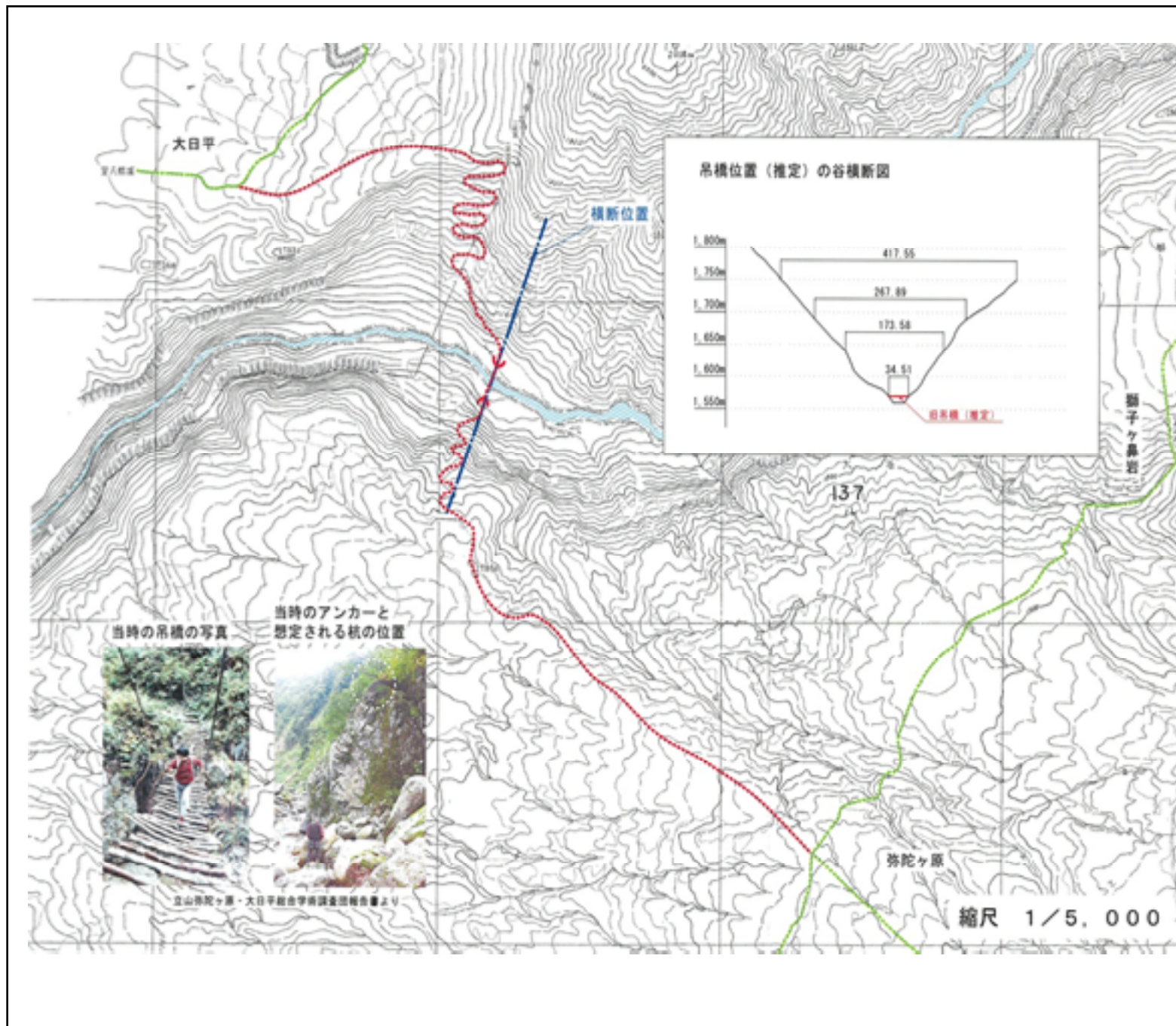
2 「弥陀ヶ原～大日平の吊橋復元」について、**当時の情報収集**

- 「2014～2016 立山弥陀ヶ原・大日平学術調査団報告書」より
- ・1970年発行の国土地理院の地図に旧道がはっきりと記載
 - ・写真の提供により、ワイヤーに丸太を縛り付けている構造が半明
 - ・吊橋の一部と思われるアンカーが河原より10m上部で確認
 - ・吊橋までは高低差約200mの急勾配

◎ 今後の課題

- 登山道等の整備予算の確保、計画的実施 ・より効果的、効率的な整備方法等の検討
- 古道(吊橋)の復元の可能性 ・現在の基準(工法、維持管理等)に対応した吊橋の設置の可能性や魅力的で周遊性の高いルートの構築が可能か検討

21 参考：弥陀ヶ原～大日平の吊橋復元検討図



● 山岳トイレの整備

＜継続実施＞

- ・環境配慮型トイレへの更新
- ・訪日旅行者に対応した洋式トイレへの移行
- ・県単独の上乗せ補助を実施



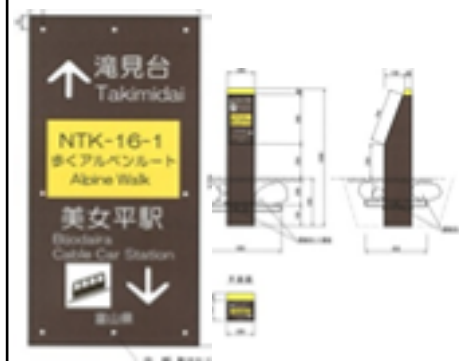
環境配慮型トイレ

中部山岳国立公園内のトイレ整備状況

		H26	H27	H28	H29	H30 (予定)
全体数		79箇所				
環境配慮型トイレ数	新規整備済	1	0	0	1	1
	整備済	57	57	57	58	59
	計	58	58	58	59	60
整備率		73.4%	73.4%	73.4%	74.7%	75.9%

● デザインの統一

- ・中部山岳国立公園登山道標識統一デザイン基準(案)



27 とやまのライチョウサポート強化、生息状況調査

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議より

- 富山県を中心に、本県のライチョウ保護活動を多くの者に広めるため、室堂等における各県のサポート隊との連携内容を検討。
- 本県のライチョウが安定的に生息しているか、定期的に生息数調査等を行い、保護活動の基礎情報とする。

◎ 検討状況

【これまでのライチョウ保全の取組み】

S48年からライチョウ保護柵を設置(9.7km)

とやまのライチョウサポート隊の結成 (H29:129名・今後も継続実施)

長野県等のサポート隊との連携による保護活動の実施

ライチョウ緊急連携調査、立山ライチョウ生態調査

⇒ これらの取組みの結果、全国的にライチョウの生息数が減少する中、富山県内の生息数は安定的に推移しており、今後もライチョウ保全の取組みの継続・強化を図る

ライチョウの生息数		S50年代	H20年代
	県内	1,300羽	1,300羽
	全国	3,000羽	2,000羽

近年の調査実績

- ・H22:薬師岳
- ・H28:立山
- ・H29:朝日岳



安定的に生息しているライチョウ



朝日岳での生息数等調査(H29)



立山での生態調査



長野県サポートとの保護柵設置

◎ 今後の課題

- 現状 これまでの取組みの継続
 - ・これまでの継続した取組みもあり、ライチョウの生息数は安定。植生も徐々に復元。計画的な施設整備。
- 今後 日本一のライチョウ王国の永続
 - ・主要3山(立山、朝日岳、薬師岳)での生息数等のデータ収集、生息域内保全の重要性の普及

27 参考：積雪期のライチョウ保護の取組みについて(4月中旬～5月、11月)

立山黒部アルペンルート全線開業当初から、関係者との連携した積雪期におけるきめ細かな取組みを実施

○室堂平周辺積雪期利用適正化委員会による取組み

室堂平の積雪期利用ルールマップ (積雪後～11月30日)

利用の
ルール
を定め、
入山者
に周知

- 地獄谷に立ち入らない。
- (噴気活動が活発化している)
- 除雪作業区域に立ち入らない。
- ライチョウ保護区域に立ち入らない。
- ハイマツなどの植生帯に踏み込まない。
- ビーコンを携帯する。
- 携帯トイレを携行する。
- 融雪防止剤は使用しない。
- 山岳保険に加入する。



○県による取組み

スキー規制区域の設置 (昭和50年度～)



春に立山地域にスキー規制区域を設定してスキーヤー等が繁殖地のハイマツ帯等へ入らないよう保護看板、ポール、ロープ等を設置。

H29は、雷鳥荘からエンマ台にポール、ロープ、看板を設置、室道平のハイマツ植生箇所2箇所にポール、看板を設置。

各プロジェクトの進捗状況

- ① 具体的な取組に着手しているプロジェクト(10プロジェクト)
 ② 課題解決に向けた情報収集・検討を行っているプロジェクト(12プロジェクト)
 ③ 課題整理を行っているプロジェクト(6プロジェクト)

No	プロジェクト名	責任者 (事務局)	WG 対象	期間	進捗状況
01	混雑スポットにおける食事・休憩スペース拡充	立山黒部貫光(株)		短期	② 立山黒部貫光において、室堂でのオープンテラス設置に向け、今年度中に具体的な位置や設備、提供するサービスについて整理し、H30年度のお盆等繁忙期に試験的に営業する。
02	アルペンルートの営業時間拡大	立山黒部貫光(株)	○	短期	② 来年度の繁忙期の早朝に、営業時間拡大の試験的实施を検討。併せて、繁閑期の分散に向けた取組みについて検討。
03	乗車整理券の配布	立山黒部貫光(株)		短期	② 立山黒部貫光において、具体的な進め方を検討中。
04	高原バス等のWEB予約システム	立山黒部貫光(株)		中期	② サイネージ等を用いた乗車整理券の仕組みやWebシステムの構築等について対応を検討。
05	宿泊施設の整備	立山黒部貫光(株) 富山県	○	中期	② 既存宿泊施設の高付加価値化に向け、室堂周辺の宿泊施設(山小屋を含む)に聞き取り調査を行い、課題の洗い出しを実施。また、宿泊施設の整備に向け、「立山黒部エリア宿泊施設サポートデスク」を設置し、立山黒部エリアにおいて宿泊施設の新築・建替等を希望する事業者を受付・発掘し、行政の支援制度の紹介や関係者との協議に係る支援を行う。
06	滞在プログラムの充実	立山黒部貫光(株)	○	短期	② ガイドツアーを紹介するポータルサイトの開設や、関係者連絡会議の開催、先進地・成功事例地域の視察など、プログラム充実に向けた取り組みを実施予定。
07	アルペンルートの早期開業	立山黒部貫光(株)	○	中期	③ 安全性等の確保のために必要なデータの収集を今年度の降雪期から実施予定。
08	アルペンルート冬季営業の試験的实施	立山黒部貫光(株)	○	中期	③ 安全性等の確保のために必要なデータの収集を今年度の降雪期から実施予定。
09	黒部峡谷鉄道の冬季営業	黒部峡谷鉄道(株)	○	中期	③ 冬季営業には、安全性等の確保が課題。今後、そのために必要な対策(スノーシェッド等)について、費用の算出や、冬季期間に実施している車両整備業務との人員調整について検討を進める予定。

各プロジェクトの進捗状況

No	プロジェクト名	責任者 (事務局)	WG 対象	期間	進捗状況	
10	ヘリスキーの企画・実施	富山県		中期	③	課題整理に向け、ヘリスキーの実施を希望する事業者を発掘中。
11	黒部ルート見学会の一般開放・旅行商品化	富山県	○	中期	②	関西電力において、安全面の課題と対策についての検討。 10月11日に、本プロジェクトに関するWGを開催(東京)。
12	カルデラ体験学習会の周知強化等	富山県	○	短期	②	見学会の一部コースにおいて、応募が募集人員に満たない現状であることから、体験学習会の周知強化に向け、関係者(国土交通省立山砂防事務所等)と検討を進めている。 なお、10月3日に旅行会社の商品造成担当者を招いてのモニターツアーを実施。
13	新しいマーケット(欧米豪等)での認知度向上	富山県		短期	①	ミシュラン・グリーンガイド、ジャパンガイドを活用して、欧米豪のマーケットに対してプロモーションを実施するなど、海外に向けた認知度向上に継続的に取り組んでいる。
14	多言語表記・案内の充実	立山黒部貫光(株)		短期	①	立山駅において、デジタルサイネージをH29年3月に新たに設置したところ。今後は、より効果的な情報配信に向け、表示するコンテンツの見直しを進める。
15	携帯電話不通エリア、WiFi未整備エリアの解消	富山県	○	長期	②	関係事業者(NTTなど)によるタスクフォースを設置し(8月2日に第1回開催)、検討中。
16	ユニバーサルサービスの推進	富山県		短期	①	各事業者において、ユニバーサルサービスの推進を実施中。また、立山黒部エリアの宿泊施設等へ、現状や今後の取り組み・課題等についてアンケート調査を実施中。
17	立山～弥陀ヶ原ロープウェイ	富山県	○	中期	②	8月上旬に「海のあるスイス」先進地調査団(団長:石井知事)によるスイス等の視察を行い、欧州最新鋭のロープウェイ(スカイウェイ・モンテ・ビアンコ)の視察、運営会社社長との意見交換を実施。
18	立山カルデラロープウェイ	富山県	○	中期		
19	黒部峡谷ロープウェイ	富山県	○	中期		

各プロジェクトの進捗状況

No	プロジェクト名	責任者 (事務局)	WG 対象	期間	進捗状況	
20	宇奈月温泉街の賑わい創出	黒部市		短期	①	H29年3月に宇奈月街歩きマップを作成するなど、黒部市や地元関係者を中心に賑わい創出に努めているところ。
21	登山道の整備	富山県	○	中期	①	国の補助事業を活用するなど、計画的に登山道の整備に努めている。
22	環境意識の啓発	富山県		短期	①	ナチュラリストの養成に引き続き取り組むとともに、訪日旅行客に対応できるナチュラリストを養成。
23	山岳トイレの整備	富山県		短期	①	順次、環境保全に配慮したトイレを整備中。なお、H29は水晶小屋の整備完了。H30はスゴ乗越小屋を計画中。
24	外来植物除去活動の推進	富山県		短期	①	「とやまの山岳環境整備ボランティア」等による継続的な外来植物除去の活動を実施中。
25	利用調整地区の導入の検討	富山県	○	中期	③	ライチョウの保護のため、立ち入りには事前にレクチャーを行うなど、生息域の環境保全に向けた取り組みを既に実施しており、当面、具体的検討の必要性は低い。
26	環境保全経費の受益者負担の在り方の検討	富山県	○	中期	③	課題・条件整理に向け、受益と負担の観点から論点整理中。
27	とやまのライチョウサポート強化、生息状況調査	富山県		短期	①	第2次とやまのライチョウサポート隊(生息域パトロール・生息状況の情報提供等)を養成し、活動中。
28	雪崩事故対策	富山県		中期	①	指導員による指導など順次対応中。
	火山対策	富山県		中期	①	「弥陀ヶ原火山防災協議会」(H28.3設置)において火山シナリオ・ハザードマップ作成中。